

新聞コラムの書き方のポイントを学んだNIEセミナー＝6日、福井新聞社・プレス21



伝える力コラムで育む

新聞を活用した教育への理解を深めてもらおうと、県NIE教育研究会は6日、本年度第1回のNIEセミナーを福井新聞社で開いた。世の中の事象を捉えた新聞コラムを執筆するワークショップなどを通し、新聞の「伝える」役割に理解を深めた。

NIEを実践する教員ら6人が参加。福井新聞の1面コラム「越山若水」を通算6年



本社でセミナー 教員ら執筆体験

担当した遠藤富美夫執行役員編集局長が講師を務めた。遠藤局長は、読者に伝えるには「情理を尽くす」ことが大切と説き、コラムの場合は

情緒や感情を前面に押し出している」と説明。漢字を3割にして読みやすくしたり、日本人が元来使ってきた「やまとことば」を大切にするなどのポイントを紹介した。

続いて、参加者は「七夕」をテーマにコラムの執筆に挑んだ。七夕伝説に触れて「家族」や「幸せ」へとストーリーを展開したり、「福井の願い」として北陸新幹線の早期全線開通への期待を関連付けたりした。

福井市越廼中の野坂訓由教頭は「思いを伝える難しさを改めて感じた」と振り返りながら「コラムは起承転結で構成されている。自らの考えを伝えることが今の教育では大切で、コラムは生徒の文章を読み取る力を育む材料になる」と話した。

(山口晶永)